

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	第二の我が家のホーム 生きがいのあるホーム 開かれたホーム 家族と一つになれるホーム	継続的に見直し、画餅にならないようにしたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝のミーティング時に職員で理念を唱和し、共有を図っている。また、職員の名前札の裏にも理念をプリントしたものを入れ、日頃より理念を意識して介護にあたっている。	継続的に実施。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や八女市のいきいきサロンに参加してその場を借りてホームの理念や役割について話をしている。また、ご家族様には、契約時に説明をし、同意を得ている。その他、けやき新聞の配布や、けやき祭の開催を実施している。	継続的に実施。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所に子供たちが多く、子供たちの出入りが多い為、玄関先に親しみやすい大きな手作りの置き人形を置いている。また、ボランティア団体のドッグセラピーチーム『フレンドリー』の事務所を施設内に構えており、気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。また、園芸や畑の手入れ、草取り等、近隣住民と談笑しながら実施している。	継続的に実施。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1回以上、ボランティアによる慰問があり、踊りやギター演奏・マジック等を披露していただいている。また職員は、八女市のいきいきサロン参加、『フレンドリー』の活動を通じ交流を図っている。八女市人権フェスタへのブース参加。地域祭り等の見学参加等を行っている。	継続的に実施。

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いきいきサロンへのスタッフ派遣や施設前の道路補修に取り組んでいる。八女市人権フェスタへのブース参加。		継続的に実施。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	院内勉強会にて外部評価の意義を学び、日々の業務にかかしていけるよう取り組み、日々改善の意識を維持している。		継続的に実施。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を作成し、全職員に回覧し、情報の共有を図りながら、サービスの向上に活かせるようにしている。		継続的に実施。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	八女市いきいきサロンへの職員派遣の実施をしている。また、けやき祭や行事への参加を頂いている。		継続的に実施。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会にて実施すると共に、社会福祉士が随時相談に応じることができる。また、法人内の勉強会や各研修会に参加をしている。		継続的に実施するとともに、地域社会、家族に対する啓蒙活動に取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員への聞き取りや、アンケート(無記名)を実施している。		継続的に実施。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行っているとともに、不明な点等は、24時間の相談に応じている。</p>		<p>継続的に実施。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満・苦情において、すぐに対応できるようにしている。苦情報告書にて全職員に周知し、共有を図っている。また、苦情報告書等は、運営推進会議にて報告を行っている。また苦情受付箱の設置、苦情・相談窓口の設置を行っている。</p>		<p>継続的に実施。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>運営推進会議及び家族会や、ご家族様の面会時に報告を行っている。また、人事についても、新聞等を発刊し、報告・情報提供している。</p>		<p>継続的に実施。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満・苦情をすぐに対応できるように対策を考え、苦情報告書にて全職員に周知し、共有を図っている。苦情窓口を紹介したり施設内に意見箱の設置を行っている。また運営推進会議での情報共有化を実施している。</p>		<p>継続的に実施。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に個別面談を行っている。スタッフ会議の意見を、リーダーへ会議へ反映できる。</p>		<p>継続的に実施。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト表にて調整できている。けやき内の職員連携をスムーズに行っている。</p>		<p>継続的に実施。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係には十分に配慮し、出来る限り異動がないように、また利用者や家族に対し、異動理由等を伝えている。</p>		<p>継続的に実施。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>配置の希望や資格取得、各種勉強会への参加等を支援している。また有給休暇の取得促進を行っている。採用時の排除項目なし。</p>	<p>継続的に実施。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入職時研修や、月1階の会議で職員教育研修を実施している。また、申し送り時に人権擁護の視点について随時指導している。</p>	<p>継続的に実施。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践リーダー研修受講職員が在職している。また、研修を受ける機会の確保を行うとともに、個別の働く上での目標設定を施設長と行っている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>八女地区事業所連絡協議会GH部会への加盟・参加とともに、平成19年度よりGH部会長を担当している。また福岡県高齢者グループホーム協議会に加盟・参加している。</p>	<p>継続的に実施。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>GH部会に参加し、同業種との情報交換や、職員間での親睦会の実施や有給休暇の取得を推進を図っている。また、ストレスについての研修を年1回以上行っている。時間外労働の排除とともに、アンケート調査、施設長のメールアドレス周知等を行っている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>職員ごとの評価表及びOJT計画表を作成しており、各自にその評価内容を伝えている。</p>	<p>継続的に実施。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせて対応しているとともに、相談担当者を選任し、24時間直接相談できる体制を行っている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談担当者及び施設長の携帯電話の番号をお知らせし、24時間相談可能な状態にしている。また家族会の毎月実施。</p>	<p>継続的に実施。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>福祉専門職として、当事業所の利益優先は考えていない。個々の事案に合わせた対応を行っている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設のデイサービス利用をはじめ、グループホームへの体験入居等を個々の事案に合わせて行っている。また家庭訪問等も含め、家族との信頼関係構築に勤めている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活共同体として、また福祉・介護事業所として、共に同じ時を過ごしながら、本人様の知恵・知識・趣味を取り入れた作業やレクリエーションを行っている。(生け花・茶道・園芸・しめ縄作り など)</p>	<p>継続的に実施。</p>

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	理念である『家族とともに』ということを常に意識し、介護を行うとともに、担当者会議の定期開催、経過記録の開示等、共に本人を支える存在として関係を築いている。		継続的に実施。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族と本人の関係を良好に保てるように、外出・外泊機会を促進し、また家族会、面会頻度の確保等について担当者会議等で同意していただくとともに、家族関係が切れないよう支援している。家族の宿泊施設を完備。		継続的に実施。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族以外の知人や友人の面会がある。		継続的に実施。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立している利用者はいない。喜怒哀楽等の自由な感情表現の中で、関わり合って、支えあって生活している。		継続的に実施。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする事案に応じた対応を行っている。併設デイサービスへの利用や、居宅介護支援事業契約等を行っている。		継続的に実施。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当の計画作成担当者及び担当介護職員をはじめ、管理栄養士等全職員で本人の意向等を聞きだし、担当者会議等の場や職員会議の場で情報共有し、利用者本位を検討・実践できるように勤めている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に家族との打ち合わせを行っているとともに、把握するように担当介護支援専門員及主治医等からの情報提供に努めている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>総合的に把握できるように、内的因子・外的因子・環境因子等を定期的に評価するとともに、一日のプログラムについても個別に作成し実施している。</p>	<p>継続的に実施。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時及び認定更新時、及び関係者からの要請があった場合に、担当者会議を開催するとともに、毎月の職員会議で全入居者様の介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回の見直しを実施している。また変化が生じた際には、主治医、家族を含めた担当者会議を開催している。</p>	<p>継続的に実施。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録し、共有を図り、介護計画に反映している。		継続的に実施。
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	国内法及び国際法、社会福祉士倫理綱領、介護福祉士倫理綱領に照らし、禁じられていないことについて、当事業所で可能な限りの柔軟な対応はしている。		継続的に実施。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に1回以上ボランティア慰問あり、年に2回消防立会いの下、防火避難訓練を実施。ボランティア団体の事務局あり、民生委員の運営推進会議参加あり、筑後市徘徊SOSネットワークに加盟。		継続的に実施。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉専門職として、当事業所の利益優先は考えていない。他のGHの空き情報を地域介護支援専門員等に周知するとともに、有料老人ホーム、介護保険施設、在宅サービス等についての説明資料を常備している。		継続的に実施。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護をはじめ、ケアマネジメント等について、随時相談しているとともに、運営推進会議参加案内を行っている。また公文式学習療法勉強会に参加頂いた。		継続的に実施。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は家族・利用者にて決めて頂いており、受診の際には、GHサマリーを添書としてお渡ししている。また緊急時の対応方法等を含め、担当者会議開催時には主治医の参加を求めている。医療連携体制に基づく日常的な健康管理を実施している。		継続的に実施。



グループホーム けやき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と良好な関係保持している。職員が気軽に相談できる居宅療養管理指導を実施して頂いている。また希望する家族・利用者には、専門医情報の提供をしている。		継続的に実施。
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員2名配置しているとともに、医療連携体制加算に基づき、看護職員より主治医へ毎日の健康状態を報告している。必要時には主治医より指示を頂いている。また24時間主治医と連絡がとれる体制となっている。		継続的に実施。
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携をはじめ、医療ソーシャルワーカーとの連携を行っている。(福岡県社会事業協会:ソーシャルワーク協会加盟)。病院関係者には、入院時よりソーシャルワークを展開し、早期退院について協議している。		継続的に実施。
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族との打ち合わせを実施しているとともに、担当者会議時等に話しをしている。また、職員間にも看取りに関する指針を周知させている。		継続的に実施。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの指針を作成し、家族に説明をし、同意を得ている。また主治医を含めた担当者会議等の場で、家族の意向や利用者の意向を常に聞き取りしている。		継続的に実施。
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員との連携、ご家族様との頻回な面会、打ち合わせ等を個別に実施している。		継続的に実施。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いには気をつけ、個別記録等の記入、申し送りは、入居者様の前では行わないようにしている。また記録物は鍵のかかる場所にて保管している。</p>	<p>継続的に実施。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせて対応している。</p>	<p>継続的に実施。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のプログラムは自由になっており、希望にそって支援している。</p>	<p>継続的に実施。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月2回、2つの事業所より理美容サービスを取り入れ、選択できるように配慮している。また望む店がある場合には、家族と協議し、外出して理美容サービスを受けて頂いている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に準備から配膳、片づけを行っている。</p>	<p>継続的に実施。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>献立作りに意見を反映している。また、買い物リハビリや訪問販売の実施を行っている。喫煙場所は職員と同じ場所を準備し、アルコールも規制していない。</p>	<p>継続的に実施。</p>

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンに合わせ、プライバシーの保持できる空間にて排泄できるよう支援している。		継続的に実施。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声かけし、入浴可否を聞いている。無理には行わず、希望に応じて対応している。入浴時間もルール化していない。		継続的に実施。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心した空間にて休息したり眠れるように支援している。		継続的に実施。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩をはじめ、園芸作業、創作活動及びアクティビティ計画を毎月計画し、実施している。		継続的に実施。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員に対し経済的自立についての重要性を研修しており、利用者の力に応じ、所持し、使用できるように支援している。		継続的に実施。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別にできている。		継続的に実施。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	外出リハビリの参加で、機会を作っている。その他、ご家族様との外出や外泊も支援している。		継続的に実施。

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望があれば、ご家族様に電話をしていただいている。年賀状や書中見舞いのはがきを出している。また利用者自身による携帯電話の所持も認めている。		継続的に実施。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすいよう面会時間帯を自由にし、居心地よく過ごせるように、談話室・宿泊施設を準備している。		継続的に実施。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間でのチェックを行っている。また、勉強会を実施し、理解する機会を作り、取り組んでいる。加えて身体拘束が必要な場合のマニュアルを作成している。		継続的に実施。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。夜間 21時～翌朝 6時までは施錠を行っている。		継続的に実施。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤帯の業務として、全体把握をシステム化している。		継続的に実施。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決め、取り組みをしている。またひやりはったした事柄は、事故防止策について協議し、周知徹底している。		継続的に実施。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれにマニュアルを作成している。また事故が発生した場合には再発防止策について協議し、周知徹底している。		継続的に実施。

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。また、毎月訓練を実施している。		継続的に実施。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難誘導訓練を実施すると共に、月1回の自主訓練を実施している。また運営推進会議等時にも近隣住民への協力をお願いしている。年1回以上の消防署立会の避難訓練時には、近隣にも参加案内を行っている。		継続的に実施。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に説明を行っている。		継続的に実施。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	主治医、医療連携看護師に速やかに報告し、他職員も業務日誌の申し送りにて情報を共有している。		継続的に実施。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量について理解し、症状変化の確認を常に行っている。		継続的に実施。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	健康体操の取り組み。個別リハビリを実施。また、管理栄養士の指導の下、整腸作用のある飲食物を活用し便秘改善・予防に努めている。		継続的に実施。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、口腔ケアを実施しているとともに、歯科医による居宅療養管理指導も行っている。		継続的に実施。

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士、看護職員による管理指導のもとに、主治医と協同し、適切な支援を行っている。		継続的に実施。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。全職員に周知している。		継続的に実施。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士による管理指導の下、日々食中毒予防を実施している。また、全職員の定期的な検便検査を実施している。		継続的に実施。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に子供たちが親しみやすいように人形の置物を置いている。また、冬場は施設周囲にイルミネーションを飾っている。		継続的に実施。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁飾りを作成している。その月の誕生者の紹介や、日々の活動の写真の掲示を行っている。またBGMや空調にも気を配り、テレビ音量等も含めて居心地のよい空間になるよう工夫している。		継続的に実施。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日には、屋外(ベランダ)でお茶などを行っている。		継続的に実施。

グループホーム けやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、自宅からお持ちいただいている。日常生活用品等の持ち込みは自由にしている。		継続的に実施。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日実施している。		継続的に実施。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり設置、システムキッチン、トイレ内手すり等環境を整備している。		継続的に実施。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱事例なし。		継続的に実施。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダ、物干し、園芸、畑等のスペースがある。		継続的に実施。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム けやき

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームけやきでは、母体である医療法人の支援をもとに、自宅復帰を目標の一つに掲げ、認知症周辺症状の緩和訓練（くもん学習療法・動物介在療法・赤星式音楽療法等）や身体機能維持・向上訓練（作業療法士による個別リハビリプログラム等）を積極的に行っております。また人材育成・教育に力を入れ、ご入居様とともに、楽しく、ゆっくりと、その人らしい時を過ごすことに取り組んでいます。 地域密着型サービスとして、地域との繋がりを大切に、透明性の高い運営を心掛けております。その一環として、職員と地域住民とでドッグセラピーチーム『フレンドリー』を立ち上げ、共に、他施設へセラピー活動を行ったり、ドッグフェスタを毎年けやきにて開催する等、地域住民の方々との交流促進等の活動をしております。 また職員を八女市いきいきサロンに無料派遣し、認知症ケア方法、介護予防運動、栄養指導等の、講演・指導を行う等の啓蒙活動を実施するとともに、八女地区介護保険サービス事業所連絡協議会のグループホーム部会世話役長を務める等、他機関・施設等との協力や連携にも積極的に取り組んでいます。